

息軒だより

令和7年度第49号（4・5月号）

発行 宮崎市安井息軒記念館
管理 NPO法人 安井息軒顕彰会
理事長 徳村光郎 館長 伊東但
〒889-1605
宮崎市清武町加納甲3378-1
TEL 0985-84-0234
FAX 0985-84-2634
e-mail: sokken.yasui@pic.bbiq.jp
https://yasuisokken.jp

館長就任のごあいさつ

今年度より、川口前館長の任を引き継ぎ、館長に就任しました伊東 但（ただし）と申します。

前職は宮崎市職員で、合併前は清武町役場で文化財専門職員として勤務しており、この記念館の建設を担当しましたので、自己紹介がてら思い出話を少しさせていただきます。

専門は考古学ですが、35年前に採用されたおり、当時の落合町長から「遺跡の調査はもちろんだが、清武は日本一の学者安井息軒先生の生誕地で、史跡もあるからこの顕彰にも力を入れるように」と言われたことを覚えています。それまで教科書の儒学者系統図の中で安井息軒の名前は見たような記憶はあったものの、清武出身で日本一の評価など聞いたこともありませんでした。

正直、また“おらが町の日本一”の類か、少し調べればボロがでるだろうなと思いました。

しかし、その思いはあっさりと覆されました。調べれば調べるほど、安井息軒という人物の凄さに驚かされるとともに、どうしてこれだけの人物が一步町を出ると知られていないのか、とても歯痒く感じました。

初めに取りかかったのは安井息軒旧宅の整備でした。それまで旧宅は敷地北西の隅に



あって、過去の台風被害で瓦葺に変わり、年一回の先人祭の時だけ戸を開けて縁側で息軒先生の直筆の書籍類を虫干しするぐらいで、旧宅前の広場は地区のゲートボール場となり、入り口の左側は藪になり荒れてました。

文化庁の許可を得るのに苦労しましたが、2年の工事期間を経て平成6年3月に復原は完了して現在の姿に整備されました。この時、安井息軒先生を顕彰するガイダンス施設の建設も検討され、現在の場所の畑を用地として買収しましたが、経済的な理由で建物の建設は先延ばしとなりました。

（次ページへ続く）

転機が訪れたのは平成11年に息軒先生生誕200年を記念して行った特別展でした。

慶応義塾大学の協力を得て、文化会館で開いた特別展には10日間という短期間ながら、3000人を超える入館者があり、常設展示施設の必要性を訴える声があがりはじめました。落合町長は安井息軒生誕200年記念事業として資料館建設を決定し、「きよたけ歴史館」という名称で平成14年に開館しました。

「きよたけ歴史館」の開館によって、展示資料収集の協力を頂いた埼玉県川口市との繋がりもできて、翌15年度から小中学生が相互訪問する交流事業も始まり、今年度で22年を迎えました。

かつての私のように、町を一步出ると知名度が下がり、息軒先生は本当に日本一の学者さんだったの？と不安だった子供たちは、東京、埼玉の大学や史跡、資料を実際に見て、感じることによって、その不安を吹き飛ばし、自信をみなぎらせて帰ってきます。

名称は変わりましたが「安井息軒記念館」は私にとって思い出のある施設であり、帰ってこれたことをとても嬉しく思っています。

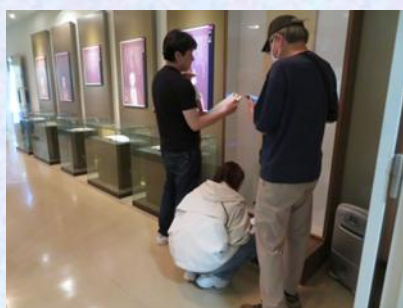
川口前館長の長年の功績を無にせぬよう、館の運営に努めてまいりますので、今後共よろしく願いいたします。

館長 伊東 但

息軒クイズに挑戦しました💛

5月1日から6日まで、ゴールデンウィーク企画として息軒クイズラリーを実施しました。子どもたちだけの参加や親子で参加された方、大学生など様々。みんなクイズ用紙を挟んだボードを片手に、黙々とあるいはにぎやかに問題を解いていました。この期間は、県外からの来館者も多く、初めて息軒を知る人も挑戦。館内だけでなく旧宅にも足を運びながら、爽やかな五月晴れのもと遊び感覚で知識導入。ひと時の有意義な時間を満喫してもらいました。10問中8問正解で息軒博士号を授与ということで、真剣に取り組む参加者の姿が微笑ましく素晴らしかったです。最後は参加賞をもらってみんな笑顔。これを機会に息軒先生に興味を持って、また当館を訪れてもらえたら嬉しいです。

(文責 長野)



キリシタン灯籠 (織部灯籠)



安井息軒記念館の敷地内にあるお茶室「紅梅庵」に灯籠があるのはご存知でしょうか。私久保田が昨年度学芸員に着任する前、面接を受けに初めて安井息軒記念館を訪れた際にこの灯籠を発見しました。この灯籠は「キリシタン灯籠」または「織部灯籠」と名称がついています。大正末期から昭和初期にかけて、研究者や郷土史家の間でキリシタン遺物の研究熱が高まり、織部灯籠の一部をキリシタン灯籠と呼ぶようになったとのことです。全国各地に存在するのですがキリシタンの為に作られたかどうかは確かではありません。現代では灯籠の一つの様式として、キリスト教とは関係なく庭園などに設置されています。

「キリシタン灯籠」の特徴は、基礎や基壇がなく竿の部分在地中に埋め込む様式で、火袋の下の方の竿の上部が楕円形になっています。これを一般的に「織部形」と言います。ここにキリシタン要素が入った解釈が加わると、竿の部分の楕円によって十字架を表しています。楕円の中央に刻まれた文様は、「PTI」(PATRI)…ギリシア語で「父」という文字を縦書きに崩したものであるという説や「Lhq」(Qahal…ラテン語で「集会」)を右に90度傾けたものという説など様々あり、どれも定かではありません。しかし、「キリシタン灯籠」にはこの文様が共通して刻まれています。「紅梅庵」の灯籠にはありませんでしたが、竿の下部に「マリア観音」または「宣教師像」とされる人形が彫られているものもあります。また、竿の側面に「岩松无心 風来吟 錦上添花 又一重」と彫られる場合もあります。時代により文字が刻まれていなかったり、人型がなかったりと様々ですが竿部分に楕円のふくらみがある様式は共通しています。楕円部分に文様が刻まれているとやはり「キリシタン灯籠」の様式を意識した造りであると言えます。

私が学部生時代、鹿児島県の「旧島津玉里庭園」の「キリシタン灯籠」について調査を行ったことがあります。そのため、安井息軒記念館の「キリシタン灯籠」を見たときに、安井息軒についてまだ詳しく知らなかったため、キリシタンとなにか関係があるのだろうかという疑問に思っていました。しかし、茶室建設は平成14年の「きよたけ歴史館」建設と同じ時代のことで、安井息軒とは関係がないと後にわかりました。そして、「紅梅庵」の灯籠も現代に制作された新しいものであるため、キリスト教とは関係ないものでしょう。埋め込み式の灯籠は場所を取らず汎用性が高いため、「織部形」の灯籠は好んでおかれることが多いのです。

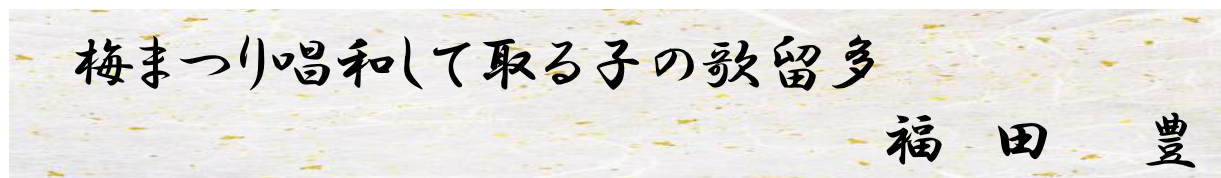
安井息軒は『弁妄』においてキリスト教批判を行っています。その安井息軒に関連する施設内に「キリシタン灯籠」が設置されているというのはなんとも不思議なものです。当館を訪れた際には茶室「紅梅庵」の灯籠を少しご覧になってはいかがでしょうか。

(文責：久保田)

俳句コンクール授賞式

昨年度3月9日(日)に安井息軒記念館俳句コンクールの表彰式が行われました。総応募数345名。小学生の部、特賞(息軒賞)3名、金賞(滄洲賞)8名、銀賞(佐代賞)13名、銅賞(清溪賞)25名。
一般の部、特賞(息軒賞)1名、金賞(滄洲賞)2名、銀賞(佐代賞)3名、銅賞(清溪賞)5名。
計30名の方が表彰されました。

一般の部の特選(息軒賞)の句をご紹介します。



安井息軒俳句コンクールは令和6年度を持ちまして最後となりました。これまでご参加いただいた方々に深くお礼申し上げます。

講座・イベント情報

○安井息軒記念館講座

6月21日(土) 10:00～11:45

「安井家、安井滄洲そして息軒」

講師：NP0法人安井息軒顕彰会

川口 眞弘 氏 (前安井息軒記念館館長)

○息軒会読

全3回 ①7月26日 ②8月9日 ③8月23日

13:30～15:30 (※終了時間は変動する場合がございます)

『左伝輯釈』を一緒に読み、詳しい解説を加えていく講座です。

○安井息軒書道展作品募集

募集期間7月31日(木)～8月31日(日)

講座・イベント等のお申し込み、お問い合わせは窓口および電話・FAX/メールにて受け付けております。
日程および内容が変更になる場合がございますのでホームページで最新情報をお知らせしております。



HP



Instagram



Facebook